

第6学年2組 国語科学習指導案

令和6年10月21日(月)5校時 指導者 牧野 美和

子どもが伸びる授業づくりプロジェクト:レインボーモデルの具体化

③内的な思考・判断の言語化(本時)

本単元では、中心人物である亮の心の変化やその理由を考え言語化していくことで、登場人物の人物像や物語の全体像をとらえていく。理由を考える際には、心情描写や情景描写、くり返し出てくる表現などを選び出し、想像したことを一人読みブックに書き込んでいく。その中でも、「ビー玉」と「模型のまち」に関わる表現に着目し、その効果を考えることで、内的な思考・判断を言語化していく。また、グループや全体での協働的な学びを取り入れていく。

④ 所与の条件に即した記述

本時の学習では、亮にとって「ひろしま」は、どのように変わったのか、「ビー玉」と「模型のまち」に着目して考える学習のまとめとして、3Z(10分、350字程度、条件①「模型のまち」②「ビー玉」を入れる)を用いて記述する。協働的な学びの中で話し合ったことをもとに、条件に即した記述ができるようにする。

⑦読み書きの体幹の強化

本単元の学習と並行して、朝読書などで中澤晶子さんの本の読書をしたり、家庭学習で「模型のまち」を音読したりして、読む力をつけていく。また、ドリルタイムを活用して、視写をしたり、条件を与えた作文を書いたりして、読み書きの絶対量を増やしていくようにする。また、他教科や総合的な学習の時間等で、日々の感動や学んだこと、感想などを作文として書き表し、それを交流する場を設定するなど、記述することを日常化していくようにする。

- 1 単元名 人物像や物語の全体像を想像し、感じたことや考えたことを友達と伝え合おう
模型のまち(東京書籍 6年)

2 単元について

(1) 教材観

本単元の重点指導事項は、学習指導要領における「C 読むこと」(1)エ「人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること」である。また、言語活動としては、「C 読むこと」(2)イ「詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動」に位置付けられている。

本教材は、転校生として「ひろしま」に引っ越してきた亮を中心人物として、三人称視点で描かれている。原爆ドームは知っているものの、そこがどのような場所だったのかを全く知らなかった亮が、「模型のまち」作りと、「ビー玉」を通して、そこにかつて「まち」があったことや、そこで子どもたちが暮らし遊んでいたことを知り、まちの子どもたちが原子爆弾や戦争によっていなくなったということを理解していく姿が描かれた物語文である。「亮」に起こった変化やその理由について、「ビー玉」や「模型のまち」についての叙述をもとに考えることで、その表現の効果についても考えることができる教材である。

(2) 児童観

本学級の児童は、学習に対して前向きに取り組んでいる児童が多い。その一方で、読み書きの困難さから、教師の支援を必要とする児童もいる。また、自信がなく、自分の考えを伝えることが難しい児童が多い。普段の学習の中で、3Z の条件を与えた記述には、積極的に取り組む様子が見られる。書こうとする意欲が見られる一方で、記述の内容の質を上げていくことも必要である。

児童はこれまでに「風切るつばさ」の学習で、描写から人物関係や心情を考え、解説文を作って友達に本の紹介をするという活動を行ってきた。問いを立て、一人読みをし、場面の出来事や人物の相互関係、心情表現とその解釈をまとめ、問いに対する自分の考えを深めて書くことができた。初めて一人読みに取り組んだので、一人読みブックにどう書き込むといいのか戸惑う部分もあったが、友達と考えを共有する中で、自分なりの一人読みブックを仕上げていくことができた。しかし、文章理解に関して、抽象的な表現や比喻表現に対して理解が難しい児童もいて、個別の声掛けが必要であった。また、読むことが苦手な児童もいるので、何度も教材文を読み込み、読解や記述ができるようにしていきたい。

(3) 指導観

指導にあたっては、まず、心に残った文章や表現を選び、考えたことを友達と伝え合おうという学習のゴールに向けて、ラーニング・マウンテンを使ってつけたい力や学びの道筋を共有し、学習への見通しがもてるようにしていく。

次に、一度通読し、物語に対しての問いをもつことで、目的意識をもって読み取りができるようにする。

そして、何度もくり返し文章を読み（多読）、内容を理解するための一人読みの時間を設ける。そこで、登場人物の心情が読み取れる描写や表現を選び出し、教科書に線を引いたり、想像したことを書きこんだりする。読み進めていく中で、全文を通して考えたい問いを学級で2つ程度に絞る。問いについて考える際に、亮の心情の変化を考えていくとよいことに気付かせる。そして、物語の構成や人物同士の関係を確かめたり、「ビー玉」と「模型のまち」に関わる表現に着目したりして、その効果を考えることで、登場人物の人物像や物語の全体像をとらえていく。

本時では、亮に起きた変化や、その理由を考える。まず、一人で考えるようにする。一人で考えることが難しい児童には、個別に一人読みブックに書き込んだことを確認しながら声掛けをしていく。次に、ペアやグループでの対話をもとに子どもたちが考えを出し合うことで、より深い読みができるようになってほしい。その際には、協働的な学びができるよう、子どもの発言でつながる話し合いができるようにしたい。また、亮に起きた変化やその理由を「ビー玉」と「模型のまち」に着目して考えることを始めに確認しておくことで、話し合いがぶれないように意識させたい。そして、話し合ったことをもとに、『3Z（10分、350字程度、①「模型のまち」②「ビー玉」を使う）』という3つの条件を入れて、本時のまとめを書くようにする。話し合ったことをワークシートに残しておくことで、まとめを書く際に参考にできるようにしておく。クロームブックを使って書くことで、何度も推敲して書くことができるようにする。次時には全体で共有することで、さらに自分の考えを広げて深めていきたい。

最後に、物語の内容や構造を捉え、精査・解釈しながら考えたり理解したりしたことを基に、自分の考えを書き、友達に伝える活動を行う。お互いの考え方を共有することを通して、より自分の考えを広げることができると考えられる。作品を通して、筆者の中澤晶子さんの、「戦争を自分の身近に感じてほしい」、「平和な世界を伝えていってほしい」という思いも感じ取ってほしい。

3 単元の目標

情景や心情を描いた表現に着目して読み、物語を読んで考えたことを伝え合うことができる。

- (1) 比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。

【知識及び技能】(1)ク

- (2) 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。

【思考・判断・表現】C(1)エ

- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。

【学びに向かう力、人間性等】

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。(1)ク	◎人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。C(1)エ	・進んで物語の全体像を具体的に想像し、学習の見通しを持って、考えたことを伝え合おうとする。

5 指導と評価の計画(全9時間)

次	時間	主な学習活動	評価規準と方法
一	1・2	<p>これまでの学習を振り返り、単元の学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物語の表現に着目し、考えたことを友達と伝え合うという学習課題を知る。 ・つきたい力とその生かし方について話し合う。 ・言葉の力を確認し、ラーニング・マウンテンを作る。 ・全文を通読して、問いを立てる。 <p>(予想される問い)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平和公園は初めから公園ではなかったことを知り、亮はどう思ったか。 ・模型のまちだったのにちゃんとふつうの色があったのはなぜか。 ・なぜ、亮はかっちゃんのビー玉だと思っているのか。 ・亮の考えが変わったきっかけは何か。 <p>など</p>	
二	3	<p>「模型のまち」を表現に着目して読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立てた問いを意識して一人読みをする。 ・人物の気持ちや様子など、物語の解釈を行間に書き込む。(一人読みブック) 	<p>【知識及び技能】</p> <p>発言・一人読みブック・ノート・ワークシート</p> <p>比喩の表現の工夫に気付くことができる。(1)ク</p>

4・5・6	<p>物語の人物どうしの関係を確認、構成を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の相互の関係について整理する。 ・物語の「時」の変化に着目して、構成を捉える。 <p>全文を通して考える問いを絞る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体で話し合い、2つの問いに絞る。 <p>(問い)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ビー玉」や「模型のまち」は何を表しているのか。 ・亮が物語の始めと終わりではどう変わったのか。 <p>表現の工夫に着目し、亮に起きた変化を考える。</p>	<p>【主体的に取り組む態度】</p> <p><u>観察</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・進んで物語の全体像を具体的に想像し、学習の見通しを持って、考えたことを伝え合おうとしている。 <p>【思考・判断・表現】</p> <p><u>発言・一人読みブック・ノート・ワークシート・クロームブック</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。C(1)エ
7(本時)・8	<p>表現の工夫に着目し、亮に起きた変化の理由について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・亮を変えた出来事(きっかけ)は何か。 ・亮の心情に関わる重要な役割をもつ「ビー玉」と「模型のまち」に関わる表現に着目し、その効果を考える。 ・亮に起きた変化やその理由について考えたことを書く。(3Z) 	<p>【思考・判断・表現】</p> <p><u>発言・一人読みブック・クロームブック</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。C(1)エ
三 9	<p>物語を読んで、感じたことや考えたことを書き、友達と伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○心に残ったこと ・亮のビー玉への思い ・亮のまちへの思い ・亮の真由と圭太への思い ・亮の生き方(亮の心の成長)への思い ○筆者が伝えたかった事 ○自分の考え 	<p>【思考・判断・表現】</p> <p><u>発言・一人読みブック・クロームブック</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。C(1)エ <p>【主体的に取り組む態度】</p> <p><u>観察</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・進んで物語の全体像を具体的に想像し、学習の見通しを持って、考えたことを伝え合おうとしている。

6 本時の学習

(1) 目標

亮に起きた変化やその理由について、情景や心情を描いた表現に着目して考えることができる。

(2) 展開

※丸数字は「ととりの授業改革【10の視点】」

学習活動	○主な発問・予想される児童の反応	・教師の支援 ◎評価
<p>1. これまでの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。</p>	<p>○前回の学習内容を確認しましょう。</p>	<p>・ラーニング・マウンテンを使って学習の見通しを持つ。 ・本時の流れを提示する。(①) ・前時までの学習の流れを教室に掲示しておく。</p>
<p>亮の中で何をきっかけにどのような変化が起きたのでしょうか。</p>		
<p>2. 亮に起きた変化やその理由を考える。</p> <p>・一人(ノートに考えを書く) ・ペア(考えを伝え合う) ・グループ(考えを伝え合う)</p>	<p>○物語の中での亮の最初と最後の気持ちはどんな気持ちでしたか。</p> <p>○何をきっかけに変わったのだろうか。それが分かる表現を探しましょう。</p> <p>○亮がどのように変わっていったのかが分かる表現とその時の心情を順に書き出してみましょう。</p> <p>「ひろしま」のまち</p> <p>何だかつまんない。何にも知らない。興味はないけど気になる。</p>	<p>・自分の広島での修学旅行の経験と重ね合わせて、どんなことをきっかけに自分が変わったかを想起することで、亮の心情を考えるための思考の流れを確認する。</p> <p>・「模型のまち」や「ビー玉」に着目して考えるように促す。</p> <p>・友達の考えでよい考えはノートに書き足してもよいと伝える。(④)</p>
<p>(話し合いの例)</p> <p>最初、亮の気持ちは……だった。それが、最後には亮の気持ちは……になった。</p> <p>なぜ、気持ちが変わったかという、そのきっかけは、○○○で、「……」という表現から亮の「……」という気持ちが分かり、「……」という表現から「……」と考えていることが感じられるからです。……</p> <p>(伝わってくる)</p>	<p>「模型のまち」づくり(真由と圭太)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・500分の1の、あるまちの模型 ・亮も思わずつぶやく ・「ひいじいちゃんの家は、どこだっけ？」 ・真由のあのときの声が耳もとで聞こえる ・公園じゃなくて、まち ・ぴんと来ない、まちがあったなんて。 ・色はぬられず、白いままで。 ・目の前の模型でしかなく白いままねおっていた。 <p>「ビー玉」あそび(かっちゃん)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白じゃない、色がある。 ・白ガラスに黄色と赤の大きな玉に目を奪われた。 <p>「発掘調査」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あの白い大玉、亮をじっと見つめるひとみのよう ・かっちゃんたちは、確かにここにいた。 ・白いビー玉を残して 	<p>・考えたことを伝える際に、自信がない場合は、つなぎ言葉(前置きの言葉)を使うように促す。(⑥)</p> <p>・話し合いをする際の、伝え方のモデルを示し、参考にできるようにする。</p>
<p>ここには、本当にまちがあったことを知る。戦争があった。身近に感じる。</p>		

<p>3. 亮に起きた変化やその理由をまとめる。(クロームブック) 3Zで書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10分 ・350字程度 ・条件 ①「模型のまち」 ②「ビー玉」 を使って書く 	<p>○亮に起きた変化とそのきっかけを2つの条件を使ってまとめましょう。どのような表現から、亮のどんな心情が分かるかを必ず書きましょう。</p>	<p>◎人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。C(1)エ(発言、クロームブック)</p>
<p>4. 本時の振り返りをする。</p>	<p>○次の時間には今回グループで話し合ったことをもとに、全体で共有して考えてみましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の書いたまとめを紹介する。 ・めあてに対する振り返りをし、次の学習へつなげる。(⑧)

(3) 本時の評価基準【思考・判断・表現】

(B) 亮に起きた変化やその理由について、情景や心情を描いた表現に着目して考えることができています。

例：最初、「ひろしま」のまちを何だかつまらない、何も知らず、ぴんどこない、興味はないけど何か気になると思っていた。しかし、最後には、平和公園に本当にまちがあったということを確認し、「ひろしま」で戦争があったことを今までより身近に感じるようになった。

そのきっかけは、真由や圭太との模型のまちづくりである。「亮の中で、まちは目の前の模型でしかなく、白いままねむっていた」という表現から、亮のまだぴんどこない感じやまちが本当にあったことを実感できなかったことが分かった。

また、かっちゃんとのビー玉遊びをする中で、「白じゃない、色がある。ビー玉!」という表現から、亮はここにまちがあったことに、気づき始めたことが分かった。

最後に、発掘調査で熱で溶けたガラスを見て、かっちゃんの玉だと確信したことで、亮の気持ちが変わっていったことが分かった。 (363文字)

(C) の児童への支援

- ・まとめの書き方の形式(書き始め)を示す。
- ・亮に起きた変化はどんな変化か一緒に確認する。
- ・話し合ったことを板書で一緒に確認する。

《最終ゴール提示例》

物語を読んで、感じたことや考えたことを書き、友達と伝え合おう。

★既習の「さなぎたちの教室」で例を提示し、学習のゴールへのイメージを持たせる。

- 1 段落目：心に残ったことを描写を基に書く。
- 2 段落目：筆者が伝えたいこと
- 3 段落目：自分の考え

「さなぎたちの教室」

このお話を読んで、心に残っていることは、友達との関わりや自分自身をさらけ出して話をする中で、友達との心のきよりを近づけることができ、自分の成長を感じ喜んでいるところだ。

新学期が始まって友達はあるのになぜかだれもないような気がしたり、みんなのそばにいるはずなのに遠くはなれている気がしたりして、慣れない人間関係の中で落ち着かない私がいったりした。過去に、みんなが自分と違う人間に見えてとてもこわかったことや、自分が高月さんに助けてもらっていたことを思い出したりする中で、私が自分に自信のない様子が伝わってきた。しかし、高月さんとの関わりを通して、「覚えているよ、忘れてないよ。」と大きな声を出して、自分の気持ちを相手に伝えることができ、自分自身を出すことができた。さらに、その心の成長をさなぎに例え、「さなぎの中ではものすごい変革が行われる。自分を一度全部ぶっこわして作り変えちゃうみたいなの。」という表現から、「幼虫のままではいけないのかな。」「どうしたもんかとじっと考えている。」とわたしの自信のなさや思春期のなやみや苦しみを表現したりしているところがこの話のおもしろさだと思い、印象に残った。

筆者が伝えたいことは、友達や周りの人との関わりの中で、悩んだり自信を無くしたりすることはあるけれども、自分から勇気をふりしぼって人と関わる中で、自分のからを打ち破り、新しい世界が見えてくるということではないかと思う。そしてそこには喜びがあるということだ。

私にも、なかなかうまく自分の気持ちを素直に言葉にできず、相手をかんちがいさせてしまうことや、誤解させてしまうところがある。本当は、こう思っているのに、素直に言えないという気持ちを勇気を出して言えるようになると、一つ成長できると思う。さなぎのように自分を変革させることができたらいいなと思う。